

## あれこれ台北・北京・延吉便り

### Report from Taipei, Beijing and Yongil

佐野 通夫  
SANO, Michio

曾以〈首爾信息〉(《海峡》第15號)報告1988年1-3月間在首爾生活之一面向,另以〈首爾信息一號外・地方篇〉(《四國學院大學論集》第76號)報告1990年8月、12月在韓國生活之一面向。

由於2009年8月在台北停留13日、2010年2月在北京8日、同年3月在延吉4日、茲藉此報告中國生活之一面向。在臺北住在一般的住宅,在北京住在「農業展覽館(簡稱農展)」之宿舍「農展賓館」,在延吉則住在一般的飯店。

キーワード:台北、北京、延吉、生活、民族

かつて「あれこれソウル便り」(『海峡』第15号)で1988年1月から3月までの韓国・ソウルの生活の一断面を報告し、「あれこれソウル便り-番外・地方編-」(『四国学院大学論集』第76号)で1990年8月と12月の韓国の生活の一断面を報告しました。

2009年8月に台北で13日間、2010年2月に北京で8日間、同3月に延吉で4日間を過ごしたので、中国の生活の一断面を報告します。台北では一般の住宅に、北京では「農業展覽館(農展)」の宿泊施設である「農展賓館(ホテル)」に、延吉では一般のホテルに宿泊しています。

#### 台北便り

##### ・街の様子

街の中はどれも日本がはやりです。日本 YAMADA 電気があったり、看板にやたらひらがなが混じっていたりします(中国語の「的」の代わりに「の」が書かれたりしています)。

微風広場(Breeze Center)には紀伊国屋書店、無印良品、東急ハンズなど、日本の商店が多数。1階がブランド品であるのは、どこのデパートも同じです。しかし、台湾の日本商品ブームはすごいです。タイ製のアイスキャンデーにも日本語が表示されていたりします。

新光三越は建物4つの大きなデパートですが、それほど混んでいません。83年頃のソウル・ロッテ百貨店の感覚でしょうか。その後、ロッテ百貨店はめちゃくちゃな混み方になりますけど、現在の台湾は大企業より個人商店が盛んです。

##### ・博愛座

宝くじが見あたらないと知人に話したら、実は日本や

韓国のようなスタンドではなく、「彩券」という店が宝くじ売り場だと教わりました。そうしたら電鉄駅入り口に車いすのテーブルにくじを並べて売る人を発見。車いすは東京より頻繁に見かける気がします。

こちらは夕方には雨になるので、「騎楼」という歩道の上の屋根なのか、家の一階がへこんでいるというか、人の通るところがあります。工事の仮歩道の上にも屋根を作っています。しかし、その歩道の高さがまちまちなので、車いすの人は大変でしょう。そんな中で、電動車いすが、電鉄に一人で乗り込み、一人で降りていくのを見ました。

電鉄(MRT、「捷運」といいます)には「博愛座」というシルバーシートがあります。感心したのは妊娠した女性には割と譲っています。駅にも妊娠女性に席を譲ろうというポスターが。

街にごみがないとは思いますが、環境保護運動は盛んです。意識のある人は割り箸を使わず、my箸を持ち歩いています。割り箸の袋には「為環保尽一份心力、請自備環保筷」と、スーパーの袋には「支持環保、袋袋相伝」と記され、スーパーの袋は料金制です。

##### ・北投

台湾において日本の降伏記念日は10月なので、8月15日は特に何もないようです。8月15日の今日、6時に淡水で「多元文化電影節」(新住民=海外からの花嫁や労働者など=を描いた映画祭)があるというので、北投に寄って出かけることにしました。北投というのは、日本時代からの温泉です。温泉博物館があるというので出かけたのですが、これが日本時代のびっくり建物。道後温泉本館で天皇の風呂というのを見せてくれますが、それ

と同じような感じですが。市政府にあった台北探索館もそうでしたが、日本の軍歌が流れているのにはびっくりです。韓国では考えられません。もっとも、その軍歌に台湾の人がどのような思いを持っているのかは不明です。

周辺は緑の公園になっていて、その中を川が流れていますが、その川もかなり温泉色です。ここまでは台北市。その公園の中に台北市立図書館北投分館がありました。この図書館は僕が夢見ていたような森の中の木造の図書館で、すてきな空間でした。

しかし、僕の世代の台湾人には、北投のイメージは、特に日本人がらみで、やはり日本の温泉と同じで売春もからみ、余り良くないようです。

### ・多元文化電影節

そうこうして、淡水には4時半頃到着しました。観光地とは聞いていましたが、すごい人の出です。古街に出かけ、駅から15分ほどの紅樓で河口を見ながら休憩。ちょうど東京と横浜の関係のようです。

5時半頃、駅に戻ると「多元文化電影節」の案内を配っています。これが「模彩券」ということで、右に名前・電話・住所を書いて、箱に入れると、後で抽選が行なわれるようになっています。

上映場所は駅脇の広場。6時開始ではまだ明るいと思ったら、30分くらいは挨拶で過ぎます。ここは台北市を超えて、台北県淡水鎮(当時:現在は新北市)。映画祭の主催は台北県政府。台北県には7万9000人の新住民がいて、全国の新住民の20分の1が集まっているとか。台北県政府教育局は全国初の「新住民文教輔導科」をもうけています。

映画コンクールになっていて、17編の応募の中から上映されたのは佳作2編と3位から1位までの5編です。ベトナム、フィリピン、大陸から来た人が主人公になっていて、1編7分から15分ほど。5編が終わって、7時半過ぎでした。

ここで抽選です。自転車5台の内の3台、扇風機10台の内、5台の抽選がまず行なわれ、その次に、応募作ではないらしい、やはり新住民を描いた映画の上映がありました。僕はそこまで会場を出てしまったので、もしかしたら、その後の抽選で当たっていたかもしれませんが、こういう抽選ですから、その場にいないと無効です。

### ・字幕と放送

さて、僕に映画の中身が分かるかという分かるのです。というのは、字幕が付いているので。こちらはテレビもすべて字幕付きで、これは大陸も同じです。中国語という言い方をしますが、その中には方言の違いが大きいです。字幕がないと分からないのです。

台湾の言葉は「原住民」がいたところに中国南部の福建省から中国人がやってきて、その人たちが使う閩南語が台湾語として主流です。この他、前から来ていた人たちの言葉として客家語があり、戦後、国民党政府がやってきて「国語」とした北京語(普通語)があります。

電鉄の中では北京語案内が流れ、その後、台湾語、客家語、英語のアナウンスが流れます。テレビの放送は北京語が主ですが、台湾語チャンネルもあります。そのため、字幕が付きます。外省人といわれる戦後国民党政府とともに来た人とその子孫以外は、北京語と自分の言葉のバイリンガルということになりますが、40代、50代の人の場合、学校で徹底的に北京語以外を話してはいけないという政策をとられ、その人たちの子に当たる若い世代の中には台湾語が話せなくなる人もいます(前の民進党政権の時代に台湾語の学習が誕生)。また、こちらの北京語の発音は台湾語の影響を受け、日本のNHKの講座で話されている北京語(普通語)の発音と少し違います。

大陸で使われている中国語ローマ字(ピンイン)は、共産党政権成立後に作られたものなので、こちらではピンインを使わず注音字符を使っています。図書館のコンピュータも注音字符入力なので、注音字符が分からないと検索もできません。街角の道路標識は漢字とローマ字が書かれていますが、このローマ字はジョン・ウェード式でピンインと異なります。だからこちらの人に字の読み方を聞いても、ピンインでは書いてくれないので、聞き取りがはっきりできて、音だけで分かる人ならともかく、聞き取りが十分でない(中国語には日本語音からすると似た音がたくさん)僕としては、メモして自分で辞書を引いて音を確認する以外にありません。

### ・物価とレジスター統一領収書

物価は食費と交通費は安いと思うのですが、それ以外は必ずしも安いわけではないような気がします。例えばワイシャツクリーニングは50元(150円)。かたや、バス・電鉄は初乗り20元(60円)で乗り継ぎ割引もあり、タクシーは初乗り70元(210円)で、3キロほど乗って150元(450円)です。食事は街の店なら一人150元(450円)あれば、食べ過ぎです。それでもホテルで昼食をとれば、一人500元(1500円)になったりします。350mlの缶ビールが26元(80円)。日本のビールが高いのは第3のビール騒ぎで分かるように、税金が原因です。稚内からサハリンへの航路(国際航路なので免税)ではサッポロの缶ビールを100円で売っていたのですから。

ディズニーの「天外奇跡」(日本では「カールじいさんの空飛ぶ家」)を見ました。3Dはそうでないものより100元あまり高い310元です。それでも日本より安いで

す。日本の映画はとにかく高すぎです。映画は1000円が良いところでしょう。だから日本の映画館はレディース・デーのみ混みます。なお、英語音声を中国語字幕で見ました。

子ども料金は身長で決まります。電鉄には6歳になって、115センチ以上だったら切符を買ってと、実際にその高さに線が引いてあります。日本のプリンスホテル系の華泰王子大飯店前で配っていたバイキングのちらしによると、身長120センチ以上は全額(一人499元=1500円)、90-120センチは2割引、90センチ以下はタダだそうです。

ここでは小規模な個人商店でない限り、デパートのモスバーガーで65元(200円)のハンバーガー1つ買っても、4.5センチ×19センチのレシートをくれます。クレジットの計算書はこのレシートと別に出ます。上5センチには店舗名等、下5センチには広告等が入るので、印字部分は9センチほど。スーパー、コンビニで多数買い物をするレシート複数枚になります。このレシート、収銀機統一發票(レジスター統一領収書)という名で、番号が振ってあり、2ヶ月に一度抽選がある宝くじになっているのです。それでお客が必ずレシートを受け取るようにして、税金を確実にというもくろみです。上海でも同じことをやっていました。



私は満6歳。身長も115センチを超えました。切符を買ってね。



レシートを入れましょう

そのレシートの抽選を丁寧にみる人もいますが、やはり面倒くさいと思う人もいます。そういう人のために、店の前、バスの中などに領収書回収箱があります。そこに入れられた領収書をボランティアがチェックして、当選金は福祉施設等に寄付されます。どこかの福祉団体が200万元(600万円)当たったとかいう話も聞きました。それが1枚のクジの賞金か、1月のトータルかは分かりません。賞金は1等から6等まであり、1等から3等は指定の郵便局、4等から6等は各地の郵便局で引き替えられます。賞金金額は書かれていません。コンビニの領収書によっては、4等から6等はその店で使えるようになっているものもあります。

## 二二八記念館

二二八記念館(1947年2月28日に台北市で発生し、台湾全土に広がった政府と民衆の抗争を記念)では日本語の音声ガイドを貸してくれるので、それに従って、ゆっくり1時間半をかけて参観しました。

解放後の国民党支配を批判するために、日本の植民地支配を持ち上げていることが気になります。ここで驚くのは中国語のパンフレットが2種類あることです。すなわち台湾で使われている繁体字と大陸で使われている簡体字の2種類です。大陸の人間のプレゼンスは大きいです。今回到着して、空港の両替には「歡迎人民幣(大陸



「豊水梨」の表記は簡体字です

のお金歓迎)」の貼り紙。そして街ではネットを網といいますが、その簡体字が書かれています。

しかし、「一つの中国」を国際社会で叫びながら、台湾人が大陸に行くと料金等が外国人値段になるそうです。南北朝鮮も北も南も我が領土と言いながら、在日朝鮮人・韓国人の処遇では差があることを想起させられます。

#### ・観覧車

劍南路駅に。ここの新しいショッピングセンター美麗華百樂園に摩天輪があります。平日は150円で、休日は200元。観覧車に1人で行くなんてと思いながら、なんとかと鶏は高いところが好きで、20分くらい待って乗車。それだけ混んでいるのに、不思議なことに客を1台おきにさせています。お互いが見えないためでしょうか。時刻は午後6時半、上るときはまだ景色が見え、乗っている途中で夜景に変わりました。

観覧車から隣の建物の寿司屋の広告が見えました。いずれにしる、夕食はこのショッピングセンターでと思っていたので、ちょうど滞在の真ん中で寿司も良いかと思ってみたのですが、10組以上待たなければならないのと、流れている寿司を見ると、どうも僕の食べられそうなものが少ないので、番号札は取ったものの、もう一度戻って美麗華百樂園で日本食を探しました。

京桃山という店で、200元の天ぷらそば（味噌汁付き）に15元のご飯、45元の茶碗蒸しを頼み、さらに130元の日本酒も付けて、390元（1200円）の夕食。日本酒が400円を占めているのですが。

しかし、このショッピングセンターはすごい人出です。しかも、食堂に日本語表示がないことから分かるように、台湾人を相手にした店です。先に記したように三越に行ったときは平日ではあったけど、あのときの人出とずいぶん違います。もう一つ、天母地区という新しいデパート地区ができているとのことです。

#### ・臺北縣新住民家庭男性配偶父職參與之研究

台北教育大の先生の紹介で「臺北縣新住民家庭男性配偶父職參與之研究（台北県外国から来た奥さんの家庭の夫の父親としての役割研究）」の研究会に出させていただきました。

会場は台北県政府所在地の板橋市大観小学校で、かなり大きな（8組という表示は見たので、学年8クラス以上）学校です。学校案内パンフをもらいましたが、児童数等の表示はありません。入り口には警備員。それに感心すると、すべての学校に警備員を配置する予算が付いているとのことです。国立の学校にのみ警備員を配置し、それ以外の学校にはさすまたを配ってよしとする日本の政策とは違います。校長室の脇（校長室内から行ける）にバストイレ付き寝室がありました。こちらの学校や役所は皆そうなのでしょうか？ 日本では都庁くらいしか知りませんが。秘密部屋ではなく、あることはみな知っているようです。

#### ・高速鉄道

台湾の新幹線（高速鉄道）の台北駅の次が板橋であることを見つけ、一駅だけ新幹線に乗ることにしました。7分。だから東京から品川まで新幹線に乗るようなものです。でも料金は自由席で30元でした。新幹線で東京から品川まで行ったら運賃は160元ですが、810元の特急券が必要になります。帰りは在来線で戻る（同じ区間をMRTも走っています）と運賃17元でしょうか。こちらのスイカのようなもので乗ったので、確認できませんでした。MRTなら20元でしょう。

#### ・国立中央図書館台湾分館・国父記念館

台湾総督府図書館の資料を保管している国立中央図書館台湾分館は、日本の国会図書館とは異なり、日曜開館しているので、月曜は休みです（韓国でも国会図書館とは別に中央図書館があります）。図書館は八二三公園（50年代、中共軍が金門島を軍事攻撃し、それに反攻したことを記念する公園）に位置しています。

国父記念館の国父とは中華民国建国の父、孫文(中山)のことです。儀仗兵の行進があります。でも中では蒋介石のハガキもあり、蔣経国生誕100年もやっていました。知らなかったのは、蔣経国はソ連に留学し、奥さんはロシア人とのこと。政治は複雑です。

こちらの地名は、南北の通りは、台北駅、市政府を通る忠孝東西路で南路と北路に、東西の通りは同じく中正記念堂、台北駅から円山大飯店を通り、新しい天母地区に抜ける中山南北路で東路と西路に分かれています。だから道の名に南路、北路と付いていれば南北の道、東路、西路と付いていれば東西の道ということが分かります。

さらに住所は、この大きな道の○段という表示で、ブロックが分かり(道の片側が偶数、他方が奇数という番号の付け方)、しかも家々に住所が貼り付けてあります。これはアメリカなどでも、必ず家々にストリートと番号が明記してあるのと同じです。韓国でも同じように街路番号方式に切り替えています。日本では住居表示を取り入れたときに、家々に番号標を取り付けたはずなのに、立て替え等のたびになくなり、東京で住所を頼りに場所を探そうとするととても苦労します。

## 北京便り

### ・やはり寒い

春節(旧正月)から1週間の北京に来ました。春という名ですが、やはり寒いです。池は氷り、雪も残っています。

しかし、春節は続いています。晩には各所で花火と爆竹。春節の飾りは各所に。そういえば2008年3月末の上海でまだ春節の飾りが残っていて不思議に思いましたが、少なくとも旧1月15日の元宵節までは休みの雰囲気のようなのです。本来農業社会では、このような行事が唯一の休み。産業化して元日さえも休ませない日本は異常です。

### ・大きな北京首都国際空港

大きな空港です。入国審査場から荷物受けまでは電車で移動。その電車のスピードが速く、関空の比ではありません。空港内の案内文は中英日朝で表記。もっとも朝鮮語といっても、韓国人を対象としたものです。

入国審査に際して、最初は中国公民ブースが5つ、外国人が6つ。たいがい自国民部分ブースが列が短く早く終わり、外国人に変わることが多いので、外国人ブースの一番中国公民寄りの列に並びました。でも見てみると、外国人ブース列にすでに多数の赤い日本のパスポート。そのうち、確かに外国人側の1ブースが外国人に変わったのですが、その時点で既に多数の日本人が並び、僕はそのまま元の列で待つしかありませんでした。

### ・人がいっぱい

朝食堂で朝食。7時半から9時の間ということで8時半頃行ったら僕一人。それで給仕の女性がずっと側に立っているの、どうも落ち着かず、「立ってなくてかまいませんよ」と言うと、「中国人でないのか」と聞かれ、そうだと答えると、「食事が不習慣か」と聞かれ、饅頭と粟の粥と漬け物の食事だったので、食べ方がおかしいのかと最初受け取ってしまったのですが、考えてみると「中国の料理が口に合うか」という意味なので、「これで良い」と応えました。

それで部屋に戻ってみると、掃除とベッドメイキングの最中。散らかしたままで出たので、少しびっくり。また日本のように一人で作業していたら、部屋に入るのがためらわれますが、3人で作業。1人はトイレの掃除。1人はベッドメイキング。1人は制服が違うので、その監督でしょうか。しかしベッドメイキングを手伝っていました。そして他の2人は同じ制服ですが、この順番で偉いような感じです(あくまで感じです)。

その後、前門、天安門に。天安門広場は800メートル×400メートルはある広大な広場ですが、人で一杯。警備の人も多数。これだけ人がいたら、やはり仕事には人をふんだんに使わなければなりません。日本のように人減らしをして失業者多数という社会はやはり異様です。なお、天安門広場に入るには、東京地裁のように荷物検査と金属検査を受けなければなりません。

### ・モータリゼーション

市内混雑を緩和するため、市内に入れる車のナンバーが制限され、今日は末尾2と7の車は入れないとのこと。街はまだ車優先の雰囲気が残ります。特に右折(右側通行なので日本の左折に相当)がいつでも可能というアメリカ式なので、ちょっと怖い気がします。

でも、街路の案内は分かりやすいです。これは先に説明した台北の街の街路の名付け方と同じだからです。

### ・虹の街

景山公園に行きました。北京で一番高いということで街がよく分かります。建物の輪郭に沿って明かりで飾られている建物が多く、建物の様子もよく分かります。そしてそのとき、多数の色で飾ってある建物も多いので、夜は虹の街のようです。京都と違って、広大さを感じません。

地下鉄も10号線まで。そのほか、2両連結のバスや普通のバスやさらにはトロリーバスが走っています。トロリーバスというのは電気自動車の先駆者ではないですか。さらには王府井で見たトロリーバスはパンタグラフをたたくで走行。ハイブリッドです。

僕が乗ったのは古いトロリーバスでしたが、中には液晶テレビが備えられ、バスの前後の路線番号表示は液晶表示。しかも、停留所の案内が普通語（北京語）と英語で流れます。そういえば、景山公園終了時刻には「サウンド・オブ・サイレンス」をバックに普通語と英語で閉園案内が流れていました。

タクシーは、過去には日本では最近始まったように運転手の後ろと横をプラスチック板で囲んでいたのですが、北京では逆に最近にはプラスチック板のないタクシーがあります。日本は北京と逆行して危険になっているといえます。バックミラーの脇に空車を示す赤い標識があります。メーターのスイッチを入れると「北京タクシーによるこそ」と普通語と英語で流れるタクシーもあります。なお、自動ドアのタクシーは日本だけの現象です。タクシーのドアは当然自分で開けなければなりません。

#### ・両替とクレジットカードと

海外旅行をする一番困るのがお金の問題です。国境の撤廃が進まなくても、少なくともユーロのように東アジアで共通に使えるお金があると良いのですが。

それでとりあえずどこでも空港で1万円を両替して相場を知った後、できるだけクレジットカードで済ますようにしています。高額紙幣がない韓国（5万ウォン札＝4000円が出たといいますが、見たことがありません）では、みなが過剰なほどクレジットカードを使うので、現金はほとんど必要ありません。その次に、台湾でも日本よりクレジットカードが使える感じです。

北京空港で両替しようとする「1万円でも、それ以上でも手数料は50元（約750円）だよ」と言います。しかし、どれだけ使うことになるのか、物価がどうであるかも分からないので、とりあえず原則の1万円を両替。さて、クレジットカードはなかなか使えません。僕が一番金を使うのは本屋ですが、市内の大きな本屋でも現金です。レストラン等でもあまり使えそうにありません。日本製品等も備えた百貨店では使えました。でもその分、高い店です。銀行等のATMから現金の引き出しは可能です（両替で50元も手数料を取られるなら、手数料がかかってもこの方が割がよいです）。

#### ・北京はすべてではない：中国は農業国

農業展覧館を案内員が案内してくれました。雲南省の出身。北京に就職してどうだったかと聞くと、故郷に帰りたいとの返答です。人がみなソウルに出てきたい韓国とは違います。北京は寒くて嫌だそうです。

農業展覧館の中の中華農業文明陳列館の見学。古くからの農業技術を「文明」として認識していることが偉大です。労働なくしてはなにももの生産されないということも忘れて、「情報」の売り買いが利益になると思い込んでいる日本社会は異常です。

館内の三幕影院（全天映画館）では二十四節季に関する映画を上映。農業を重んじていればこそ、春節（旧正月）も大事なわけです。

#### ・北京大学はすばらしい

北京大学に行ってみました。東京大やソウル大のような高層建築の密集した姿を想像していたら全然違います。古い2、3階建ての建物です。建物の間は空間が十分。人文系の学問はこうでなければ。精華大学には行っていないのですが、今の政府は理科系の精華大に占領され、北京大は否定されると言われる、その理由が分かるような気がします。

#### ・韓国村

朝陽区望京新城4区にある韓国村に行きました。

北京に来てから感じていたことは、韓国企業のプレゼンスの大きさです。SK、LG、新韓銀行等々、広告、店舗など多数見かけます。日本企業で見かけるのはユニクロと吉野屋くらいでしょうか（もちろん日本企業が集まっているところに行けば日本企業も存在しているのでしょうけど）。そのため、多数の韓国人がやってきて、そこで働くために中国の朝鮮族が都市に移動するという構造です。

それでこの一帯は中国人が逃げ出し、ほとんど韓国人・朝鮮族の団地となってしまったとのこと。韓国



北京大学構内です

城という建物ははじめ、いくつかの建物は中を区切って韓国系商店（個人企業）の集まりとなっていますし、韓国系食堂も多数。この北京の気候の中でも韓国系食堂の幹部（経営者等）はスカート姿です（もちろん、建物の中は暖かですが）。

さて、中国の教育政策の中で、一つには農村戸籍と都市戸籍の問題があり、都市に働きに出てきた朝鮮族農民は都市住民としての権利を主張できないこと、もう一つは中国の民族政策の下で、地方においては朝鮮族の学校があり、朝鮮語教育がなされているのに、都市では朝鮮語教育がないということが問題となっているようです。朝鮮語教育を求めているのは、知識人でなく大衆であるということも考えさせられます。知識人は自分の子どもに漢語（中国語）教育を受けさせて、なんといっても漢語主流のこの社会で成功させたい。大衆は自分が朝鮮語教育しか受けていないので、子どもが漢語だけで育っては会話も成り立たなくなると心配しているとのこと。それで朝鮮族の学校を建てたいのだが、政府は許可しない。韓国人は自分たちで「国際学校」を幼稚園から高校まで作っているようですが、それはとても高くして朝鮮族の子どもたちが通うわけにはいきません。

中国で都市・農村問題と民族問題は一番の課題であるようです。中国中央テレビでは一生懸命、「和諧社会」を訴えています。朝の法律番組では同じ事故で都市戸籍の子どもと農村戸籍の子どもが亡くなったけど、賠償金が都市戸籍の子は20万円で農村戸籍の子は5万円だったということを知り、その後、同一事故で亡くなった場合は同一金額の賠償を払うという規定が入ったと伝えていました。

### ・地下鉄で移動

地下鉄駅に入るには、荷物の安全検査（X線検査）を受けなければなりません。5号線も10号線もホームドアは完備。車内には広告がなく、代わりに各ドアの上に「地鉄線路図（地下鉄路線図）」があり、現在駅が明かりで示されます。これはよいです。日本の地下鉄も電車もなぜか路線図が1車両に1カ所くらいしか出ていません。特に私鉄では急行、特急など、列車種別が多数あるのに、どこに止まるのかも分かりません。ロンドンの地下鉄も各ドアに路線図があり感心したのですが、先に書いた街路のわかりやすさと同じで、外から来た人、慣れていない人への配慮の違いではないかなと思います。でも、鉄道車両はUターンしたりしないので、路線図と実際の進行方向を合わせておけば良いと思うのですが、列車の右側と左側で同じ図を載せています。すると片側は進行方向と逆ということになります。

1号線に乗り換えるとホームドアがありません。それ

で急に興味がわいて建国門駅でもう一度乗り換えを増やし、2号線にも乗ってみました。2号線は環状線です。そして宣武門駅で乗り換えて4号線に。2号線もホームドアはありませんでした。最初1号線は車内の電光掲示式路線図がない（電光式でない路線図はちゃんと各ドアの上にあります）と思ったのですが、帰りに乗った1号線は電光式になっていました。車両の更新年によって違うようです。1号線には車内広告も。ただし、広告の主体は液晶テレビになっているようです。確かにその方が張り替えの手間はないし、広告量の多少も広告以外の時間で調節できます（最近の日本の電車は経済の冷え込みを反映して広告が埋まらないことがありますね）。一番新しくできた4号線は、路線図が左右とも進行方向と同じ向きになっていました。

10号線の中は物乞いが回ってきました。手には結構1元札が。建国門駅のホームには大きな袋を抱えて座り込むおばあさんも。見ていると、空のペットボトルを渡したり、中には3元渡している人もいます。

エレベータは障害者・車いす専用として普段は動いていない（これはこの前のソウルでもそうでした）ところと動いているところと。

切符はICカード式で1回用は回収されます。天津はコイン型でやはりIC（上海や台北と一緒）。北京は2元、天津は3元でした。天津もホームドア設置。ただし、まだ鉄道駅とつながってなく、使い勝手は不十分です。それから車内は韓国と同じように当然に携帯が使用できます。中国語と英語のアナウンスが流れます。

### ・招聘会

朝、農業展覧館に向かおうとすると、すごい人と車で。何があるかと聞くと「招聘会」とのこと。新館という一番大きな展示場を使って、日本でいう就職のための合同説明会が開かれているというのです。入り口では『中国人材市場報』といった募集広告紙が配られていました。若い人も多く、ネクタイ姿で訪れるのは日本の合同説明会と同じ状況、でもみなネクタイということでもなく、日本のリクルートスーツ一色というのとは違います。いつもなら中に入って賓館まで送るタクシーが中に入りません。聞いてみると催しのあるときは中に入ると駐車料金を取られるようです。

招聘会には初日に2万人、2日目に8000人が来たそうです。早くみんなの職が決まりますように。

### ・一人で食事は大変

中華料理の本拠地にいるわけですが、一人で食事をしようとするとなかなか大変です。包子（肉まん）などの小吃（軽食）の店もありますが、中華料理店の基本は複

数人で入る構造です。しかも食事をするときには食卓の足がしなるほどということが言われ、全部平らげると足りないという意思表示になる国です(残った分は包んで持って帰るのですが)。賓館の食堂に昼に一人で入ったとき、麻婆豆腐と水餃子を頼んだのですが、その量の多さに麻婆豆腐は半分残りました。

夕食を農展周辺でと思っても、大料理屋しかありません。やっと見つけたのがイタリア料理。そこでも、スパゲッティだけと思ったら、「サラダは」と聞かれ、最初にパンも出てくるというちゃんとしたコースになりました。このあたりは大使館等も多いということで、外国人も多数。ウエイトレス(さてPCではなんといったか)は英語を話します。メニューは最初イタリア語と中国語だけかと思い、さてどう選ぶかと思ってよく見ると、英語も併記。中国では外国人を見ても、日本や韓国のように彼らが米軍人であるということだけではないので安心です。

### ・天津へ

北京から140キロの天津は新幹線ができて30分の距離とのこと。行ってみることにしました。北京南駅から出発ですが、地下鉄からそのまま乗り換えできます。北京南駅も天津駅も多数のプラットホームがずらっと並び、降りる客は地下へ。乗る客は2階からホームへ降りると分けられていて、2階の雰囲気は空港の搭乗口の雰囲気です。タクシー、バス、乗用車の乗り入れなども空港のイメージです。そういえば、切符が名刺サイズの磁気カードで、乗るときにのみ改札(日本の自動改札のように機械に通すとゲートが開く)があり、降りるときはそのまま切符を持って出るのも飛行機と同じです。切符は自動販売機でも買えます。

座席は1等4列、2等5列と日本の新幹線と同じ。これだけはまねしてほしくなかったです。今は30分の距離だから良いけれど、将来は上海まで延びるとか。その際には5列座席でなくゆっくり作って欲しいものです。8両編成の中で5号車にはBarCarなども用意されています(営業はしていません)。「和譜号」と名付けられています。到着前、車内掃除の人がゴミを集めてまわります。ちょうど1等車にいたら、何人もがマクドナルドの空袋を出したので、マクドナルドを持って1等車へというのがステイタスでしょうか。

列車が天津に着くと、車両の外側をそうじする人が現れます。外側をそうじするというのはガソリンスタンドで機械を使わないで洗車してもらったときのように、車体をぞうきんで拭く感じです。ちょっとびっくりです。

ところで、この時期は半月の春節休暇を終えた人が帰る時期。新幹線の中には大きなカバンが多数。天津駅で

はタクシーにもバスにもすごい列です。特に用事のある旅でもないのに、バスで行くことにしました。しかし、そのバスに混んでいて乗れません。最初に来たバスは空調と書いてあって2元。定期券では乗れないという表示。次に来たバスは空調なしで1.5元。それでも人々が大きな荷物を持って乗るので大変です。運転士は2台とも女性。一生懸命、奥へ詰めろとか、最初のバスではもう乗れないとか言っていました。

### ・街によって雰囲気が違う

こうして北京から天津に来て街の雰囲気は違います。同時期に訪問しているのではないので正確な比較はできないのですが、2年前の上海とも、さらに前になりますが、10年前の大連とも違います。そういえば、農業展覧館の展示でも北方、南方ということが言われていました。

回ったのは天津タワー、五大道観光馬車、古文化街。古文化街では「2010金虎迎春 古文化街民俗旅游届会」(2月25日-3月1日、農曆正月十二-正月十六)ということで、中に入るのに15元必要でした。鼓楼の上で京劇が演じられていたりしました。

### ・さて、この国の物価は

不思議なのですが、物価の感覚が日本と違います。

こちらの貨幣単位は元(口語では塊)の下に角(同じ



天津でも韓国のプレゼンス

く毛)、分があるのですが、北京のタクシーでは2元ずつの加算であるなど、角、分を使う機会はあまりありません。しかし、百貨店の1階のスーパーで買い物したら角まで、そして宿舎近くの韓国で言えばクモンカゲに相当するような小さな個人商店ではやはり角が出てきました。「糯之味」という雪見大福は5角でした。

北京で角をあまり見ることがないなと思っていたら、天津のバスは1元5角。タクシーは北京が10元から始まり、1元単位で上がるのに、天津では8元が基本で、7角(?)単位で上がります。そんなことで、1角や5角の紙幣も多数登場しました。

単位のことはともかく、基本的に交通費は安いです。北京の地下鉄は2元、天津の地下鉄は3元(タクシーの高い安いと逆転しています)。北京南から天津までが2等で58元(800円)。日本で同じ距離を新幹線で行くと4400円だそうです。しかし、それ以外の特に贅沢品になると、天津タワーに登るのに50元、そのタワーでのコーヒーが40元(560円)。一方、同じタワーでビールなら20元(280円)。観光馬車に乗って30元。一番不思議だったのは、北京の前門で実用ではない観光電車が通りをわずか走って20元。実用なら地下鉄に10回乗れるし、タクシーでもかなり走れます。観光とか贅沢品が高いということは分かるのですが、他の「安い」ものに比較するとき、感覚が狂います。

### ・明日は元宵節

明日は農曆正月十五。今晚も花火・爆竹が華やかです。少し寒さが和らいだかなと思ったのもつかの間、今朝はまた寝ている間に雪が降っていました。

孔子廟(正式名称は孔廟和国子監博物館、20元)、雍和宮(25元)、鐘鼓楼(30元)、胡同まわりの人力車(2人で80元)、北海公園(5元)、永安寺(10元)、鳥巢(オリンピック競技場、50元)を回りました。先に記した物価の話との関連で入場料を記して見ました。永安寺は北海公園の中にあるので、そこまで行こうとすると両方の入場料が必要です。孔子廟が正式名称博物館となっているように、宗教施設である雍和宮なども「参観礼仏」とは記してありますが、文化施設の建前で存在し、金を取っているのでしょうか。鐘突ができるのですが、それも料金を取っていました。いくらなのはやらなかったのだから分かりません。日本のお寺では逆に宗教施設であるという建前から鐘突も志ということになっているのかもしれませんが、しかし、人々の信仰心は篤く、中国式の長く太い線香をかざし、ひざまずいて叩頭する様子は台湾の寺廟と変わりません。

孔子廟については、いま中国が各国の大学等に「孔子学院」の名で中国語等の学習機関を設置していることは

ご存じかと思います。テレビ番組でも映画でも「孔子」が登場。孔子廟の解説には民主主義思想があったとまで書かれ、いったい文化大革命中の「批林批孔」とは何であったのかと誤ってしまいます。さらに世界への孔子の思想の伝播が記されているのですが、そこでは「越南(ベトナム)、韓国、日本」と表記されています。韓国のプレゼンスの大きさは分かりますけど、さすが朝鮮バッシングの続く日本でさえ、このような場では「朝鮮」と表記するだろうになと思いました。

### ・驚き、中国韓式焼き肉

中国韓式とはなにごとかと思われるかもしれませんが。「漢拏山(ハルラサン、済州島にある韓国最高峰の火山)」という名を持つ韓式烤肉(韓式焼き肉)の店に行きました。韓式をうたっていますが、明らかに中国化された韓式です。お客も従業員もほとんど中国人だと思います。メニューにはハングルがありました、あまり朝鮮語が通じそうにありません。お客の頼み方も中国式です。多量に頼むだけでなく、一品の量もすごいです。値段は別にして(日本と比較のしようがないので)日本の焼き肉屋の3倍から4倍の分量があります。キムチ等が日本の焼き肉屋のように別注文になっているところも韓国的ではありません(サンチュは持ってきてくれます。日本の串カツ屋等でもキャベツは自由というところがあるのに、日本の焼き肉屋がサンチュまで有料なのはなんとかしてほしいです)。味付けもどうも中華っぽいです。さらに驚いたことは新しい肉を焼くたびに、ほとんど網を替えること。友人の話では日本料理は高いので、金持ちしか行けない、だから中国人は韓国焼き肉が好きだという話でした。最後にはアイスと雪が降る季節なのにスイカが出ました。

### 延吉便り

#### ・両岸路線・地区路線

羽田から中国国際航空で出発。機内誌の路線図を見ると、「国際航線(国際路線)」とその裏は「国内及地区、両岸航線」となっています。さて地区路線とは何かとみると、香港、澳門からの路線です。両岸路線とは台北との路線。中国の現実主義はすごいです。機内でもらった英字新聞『China Daily』には、ベトナム花嫁の記事。北京乗り換えで延吉には晩の10時に到着。

#### ・朝鮮語は使えるか

さて、延吉は朝鮮族自治州となっているので、公式の掲示、表示はすべて朝鮮語と中国語(漢語)の併記です。しかし、フロントなどで朝鮮語で聞いてみても通じないことがあります。思わず「どこの出身か」と聞くと、「延



中央小学校図書室

吉だ」と言い、「漢族か」と聞くと、「朝鮮族だ。ただし、漢族の学校に行ったので朝鮮語はしゃべれない」という返事です。この後、延辺大学でのシンポジウムの際、朝鮮服を着た女子学生が4名いたので、朝鮮語で話しかけても答えません。聞いてみると漢族の学生に朝鮮服を着せて接待させているようです。朝鮮がファッションになっているのでしょうか。

#### ・学校見学

六一幼稚園と延吉市中央小学校（漢語名は小学であるはずなのに、門標には漢字でも小学校とありました）という朝鮮族の学校を見学。政府が資金を投じていることがよく分かります。しかし、幼稚園で使っているクレヨンも韓国製、小学校の図書室の本も韓国製でした。中国での朝鮮語の正書法は朝鮮のものをもとにしているのです。例えば、語頭の r 音を表記します（韓国では無音）。先生に子どもたちが混乱しないかと聞くと、子どもたちは理解しているとのことでした。

その後、延辺教育出版社へ。ここでは朝鮮語教科書などを作成しています。

続いて、延辺大学を見学。創立時（61年前）は、朝鮮族の大学として朝鮮語で授業を行なっていましたが、現在は他の民族も入り、漢語で授業をしています。中国では少数民族政策がとられているので、少数民族学生は大学入学時、点数が加点されます。それは、それまで漢語教育を受けていても、朝鮮語教育を受けていても同じです。そして延辺大学入学時も少数民族学生は加点があるとのことでした。

朝鮮族の延辺一中を見学。校長はエリート校としての誇りとかなりの男尊女卑思想を披瀝。漢族

の小学校である江南小学も見学。朝鮮族がこの学校に通う児童もいます。先に述べたように、少数民族としての優遇は、受けた学校教育ではなく、民族別によって決まります。そして大学教育では朝鮮語による教育がないので、大学以上で成功するためには漢語教育を受けた方がよいと判断する親も現れることとなります。施設は中央小学校より確かに劣り、朝鮮族学校への資金投与が感じられます。

延辺大学科学技術学院を見学。もともとは韓国系アメリカ人が建てた大学が延辺大学と合併して名称が変わりました。キリスト教宣教は学校教育から切り離されているはずですが、かつて合併前のこの大学について韓国で聞いたときには、韓国のキリスト教信者から宣教のためにと金集めをしていたような気がします。

#### ・信号守らぬ人々

市内を歩くと、みな信号など無視。気持ちがよいです。この後、ソウルに行くのですが、そこでは車も来ないので、人々が信号で止まっています！ 2000年にソウルの横断歩道で車が止まった時以来の驚きでした。ソウルの人よ、どうしてしまった。

#### ・中朝国境へ

市内から車で1時間。図們江にかかる国境の橋を見学。特別に橋に入れてもらい、国境線の引かれているところまで。ここを超えれば朝鮮に行けるのにと残念です。中国ナンバーを付けた車が入っていきます。中国人は5年間のビザをもらえとか。中国側では朝鮮の切手、紙幣、たばこを土産として売っています。



ここから朝鮮